IFCCレター

改題NO84（通算98号）2021年1月

ＩＦＣＣ国際友好文化センター
東京都新宿区山吹町３３３番地
辻ビル４０５
ＴＥＬ０３-３２６８-４３８７
ＦＡＸ０３-３２６８-６０７９
Email:jvccpf@rmail.plala.or.jp

新年を迎えて

IFCCは活動開始して34 年目を迎えることになりました。ここまで至ることが出来たことを、新年にあたり、皆様のご協賛ご協力の賜物と感謝申し上げます。

昔は除夜の鐘を聞きながら一年間を振り返り“七味五悦三会”を語り合う習慣があったそうです。“七味”とは「味わった七つの美味しいもの」、“五悦”とは「感じた五つの悦び」、“三会”とは「三つの喜ばしい出会い」――些細なことでも指折り数え、その糧を新年へつなげたいと思います。

昨年はCOVID-19の影響で立ち行かなくなった有限会社アイエフシーへの「緊急支援のお願い」をし、多くの方からお気持ちをいただきました。紙上をお借りし、あらためて心より御礼申し上げます。

旅行社アイエフシーは、昨年4月以来、全くの休業状態でスタッフも軽減勤務中となっていますが、前を向いていくことを肝に銘じ歩んでおります。

・共同出資旅行社「有限会社アイエフシー」はIFCC国際友好文化センターの国際交流活動推進の活動基盤として1993年に旅行業登録をしました。その後、SARS禍、新型インフルエンザ、3・11大地震他、幾度も困難期に遭遇してきましたが、皆様のご賛同とご協力で、欧州での福祉・環境・労働、中国での平和・植林、キューバでの連帯・支援、ベトナムでの枯葉剤被害者支援・友好のテーマで活動を続け今日に至っています。

・「銃口を向け合わない友人知人を国境を越えて思い浮かべる交流を」めざし、これまで多くの分野で国際交流を行ってきました。事実を覆い隠し意図的あるいは無意識に忘れ去った「歴史」が「今」を覆っています。今年も可能なかぎり、**“忘却に抗(あらが)い”“流されず”**活動を継続していきたいと思います。

・法華経に**「化城宝処(けじょうほうしょ)」**という喩えがあるそうです意味を咀嚼すると、先が見えない時でも「仮の目標を描き、向かい歩き続ける」、「到達できなかったらまた目標を描き、向い」目標を達成する――ことだそうです。

2021年の下半期には活動を軌道にのせたく準備していきます。

キューバ・青年の島で建設中の「友好の家」とは、クバポン前事務局長（松矢文雄さん・故人）が遺言で残された基金で青年の島・日系人協会へ寄贈されているもの。現在、元事務局長（君島一宇さん）が遺志を引き継がれサポートされています。(2020/10)

キューバ・ベネズエラ連帯 キューバ連帯活動は26年を経ました。キューバの“特別期”（東欧社会主義崩壊に伴うキューバ経済困窮期）の1994年に連帯の旗を掲げ日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）を立ち上げ、これまで現地を訪ね「見聞した真実のキューバ」を日本に報告するための活動（22回の友好訪問団と1回の革命記念訪問団）を続けてきたした。残念ながら、昨年11月計画していた訪問団は中止となりました。

今秋、あらためて計画していきたいと思います。

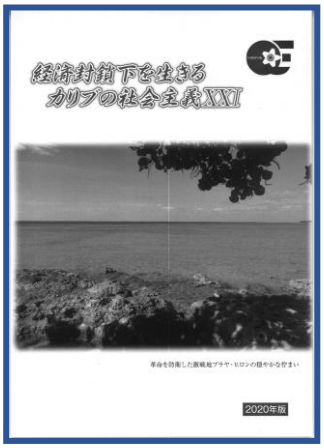
・2020年8月13日の「フイデル・カストロ生誕94年にあたって」、CUBAPONは駐日キューバ大使館にメッセージを送り、大使館サイトに掲示されています。また、2020年11月25日には「第6回全国キューバ友好の集い」がリモート開催されCUBAPONも発言参加してきました。

好評発売中

経済封鎖下を生きるカリブの社会主義 Vol.21

革命60年のキューバを記録したレポート集です。ぜひお求め下さい！

頒価 800円（送料込）
A5版 73頁
発行 2020年3月

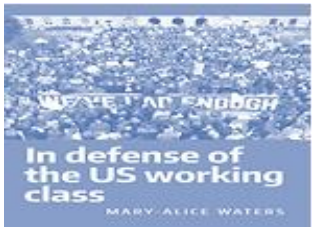


・キューバ諸国民友好協会（ICAP）は毎月 17 日にオンライン会議を開き、そこで米国経済封鎖のキューバへの影響について世界中のいろんな国のグループや友人の方々からのビデオメッセージを流して説明しています。**11 月は教育がテーマ**でしたので、ICAPからの要請により故・松矢文雄さん（前CUBAPON事務局長）が結成に参画されたキューバ教育研究会（CKK）は、2019 年4月実施の第 3 回キューバ教育訪問団の調査結果についてビデオ報告をしてきました。

・**ベネズエラ連帯活動**ではシモン・ボリバル諸国民平和・連帯協会会長カルロス・ロン氏とのオンライン会議が 11 月 16 日開催され、村上久美子 CUBAPON 事務局次長が参加してきました。
また、12 月 6 日に行われた国会議員選挙は欧米諸国に支援された一部野党がボイコットを呼びかけたものの、予定通り行われマドゥロ大統領支持の与党が過半数を制することになりました。

・**IFCC はメール発信「フェイクに抗う中南米情報」を 2019 年 7 月から開始してきています。ご希望の方は以下アドレスまでお申し出下さい。**
また、右記のパンフはアメリカの大統領選挙狂騒下メール発信してきたものです。
製本しましたのでご希望の方には実費送料負担（84 円）で無料進呈いたします。ご連絡ください。PCmail：jvccpf@rmail.plala.or.jp

米国の労働者階級を擁護する
メリーアリス・ウォーターズ著
Ａ５　54 頁
apanese translation version 1.1・2019-06-02



大使館訳

2020 年 10 月 25 日　カラカスに於いて

国際友好文化センター
代表　鎌田篤則様

シモン・ボリバルの地から親愛と連帯をもってご挨拶申し上げます。今般、「平和と人民の連帯のためのシモン・ボリバル協会」の設立をお知らせしたく、筆をとりました。本協会は、シモン・ボリバルの思想と政治活動に倣い、人民間の関係の基礎としての連帯を促進・構築することで、世界の均衡が保たれ社会正義のある恒久の平和を築き上げることを狙いとした組織です。シモン・ボリバル協会は、人類の連帯とその多様な組織方法や表現方法を促進し、社会的闘争や民衆運動、政党、人物といった各種プラットフォームとの関係を構築・推進し、また、平和促進に寄与するような知的、科学的、学術的、芸術的知見やコンテンツを振興いたします。

私たちは、植民地主義・帝国主義・至上主義的暴力との世界的闘いに位置する組織との立場をとっており、人種主義、排斥及びあらゆる種類の差別に対して正当な社会的大儀を取り戻すことで人民の団結を追求していきます。このことから、貴台が主導なさっている組織との意見交換や協力を行う関係を作りたいとの熱意をもって、書簡を差し上げる次第です。それによって、両国民のさらなる接近と連帯の絆の構築を推し進めたいと考えます。意見を交わし、友情と連帯の関係を築くための会合を早期に持つことができれば大変幸いです。

親愛を込めたボリバル主義の抱擁をお送りして筆をおきます。お返事をお待ち申し上げます。

敬具

カルロス・ロン
平和と人民の連帯のためのシモン・ボリバル協会会長

ベトナムとの友好活動の中心となっている NPO 日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）が結成されて今年で20年となり、もろもろの記念行事が予定されていましたが COVID-19 感染症の影響で制約されてしまいました。

・IFCC が 1996 年から始め現在 JVPF と共催で行っている「枯葉剤被害者支援とそのためのベトナム民族アンサンブル**チャリティコンサート**」は 2020 年秋に計画されていましたが、**25 年目にして初めて中止**という事態になりました。
コンサートの2021年秋開催に向けて、諸制約条件を排し、JVPF と共同で準備していきたいと思っています。

・しかしながら“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という叫びが続いている限り、被害者支援活動を中断できないと継続されています。
2020 年 1 月の支援金によってハザン省で 1 軒目の「仁愛の家」が落成し、現地から報告が届きました。コンサート中止によって、あと 2 軒の「仁愛の家」の支援基金が作れませんでしたが、JVPFの**支援カンパで 2 軒分約 130 万円を工面**することができました。

2021 年度ベトナムアンサンブル公演日程調整表

◎10 月 05 日（火）宮崎市
◎10 月 06 日（水）鹿児島・出水市
△10 月 07 日（木）九州Ｂ内
　10 月 08 日（金）九州Ｂ内（未定）
　10 月 09 日（土）（調整日）
　10 月 10 日（日）（調整日）
○10 月 11 日（月）大分県内
○10 月 12 日（火）福岡市
△10 月 13 日（水）九州Ｂ内（未定）
　10 月 14 日（木）中国Ｂ内（未定）
○10 月 15 日（金）福山市
○10 月 16 日（土）広島市
○10 月 17 日（日）東広島市
△10 月 18 日（月）四国Ｂ内
◎10 月 19 日（火）高松市
△10 月 20 日（水）四国Ｂ内
○10 月 21 日（木）徳島・美馬市
○10 月 22 日（金）奈良市
　10 月 23 日（土）近畿Ｂ内（未定）
△10 月 24 日（日）富山県内
△10 月 25 日（月）関東Ｂ内
◎10 月 26 日（火）神奈川・小田原市

※Ｂはブロック
※1 月 1 日現在

△：要請中
○：調整中
◎：会場確定

開催地未定があります。ご協力をお願いします。

右：元の家の模様
左：2020 年 1 月、ハザン省で寄贈された「仁愛の家」の完成模様（2020/6/24）

・ハザン省での**少数民族学生奨学金支援**活動は、2021 年 1 月に予定していた奨学金持参訪問団が中止となりましたが、予定通り 40 人分（都合 7,200 ドル）を外為送金の予定となっています。
・他に、少数民族出身学生奨学金支援事業がラムドン省（鹿児島 JVPF）とクアンチ省（広島 HVPF）で、枯葉剤被害者支援「仁愛の家」寄贈事業（さいたま JVPF）がクアンナム省で継続中です。
※JVPF は会報「ホアビン・レポート」で活動紹介しています。ご希望の方はご一報ください。

上：奨学金支援しているハザン省ヴィスエン少数民族寄宿中学校では食糧の野菜なども自家栽培しています。（2020/10/15）
下：2020 年度の奨学生の写真が届きました。

日中友好の緑化植林活動は2019年度で終了となり 2020 年 3 月に**最後の助成金を送金**してきました。17年間（足掛け18年間）続けてきました実績は **7,877,250 本（累積） 2,780ha(累積)**となりました。
植栽の木々が友好の大河の一滴になることを祈念しています。あらためて紙上をもって御礼申し上げます。

全ての派遣団に参加しサポートしていただいた IFCC 北京事務所の劉憲良さんから終了にあたって挨拶を寄せて頂きました。

緑 の 友 情

劉　憲良

2002 年から 2019 年まで 18 年間かけて、「緑の架け橋」の日本の友人の皆さんは寧夏自治区、内モンゴル自治区多倫県と河北省遷西県で 7,877,250 本を植えました、私は最初から参加し、緑の架け橋の参加者の友情と熱意とすくすく成長している木を目にしてきました。感心すると共に、佐藤晴男さんがいつも、中国の面積から見ると我々の木はわずかしか占めてないですが、点から線に、線から面になり、我々の力で日中友好と緑化活動を少しずつ広めましょうーーと言っていたことが心に残っています。

長い間にわたって、植えられた木も大きくなって、地域環境が良くなっていることを見て、感動的な話もいっぱい思い出します。両国の国民の友情も木のように根を深く下ろすことだろうと信じております。心から感謝の気持ちをお贈りします。そしてもちろんわたしも、皆さんとの友情と植林のことを多くの人に伝えて行くだろうと思います。

これから、もっと木が大きくなり、もっと中日が仲良くになりますよう、そして「緑の架け橋」の参加の皆さんがご健康で、近い将来またお会いできるよう強く期待しています。中国へようこそ、楽しみ御待ちしております。（2019 年 8 月 6 日）

IFCC 北京事務所

会報『緑の架け橋』34 号（最終）より転載

平和の旅中国での「第六次・村山談話を継承する平和の旅」は、当初 2020 年 7 月で計画し COVID-19 の影響で 11 月実施を模索してきましたが、最終的に中止となりました。
2021 年秋実施を目指し関係各位と相談し具体化を図りたいと思います。
内容は**実事求是**を旨とし、①細菌兵器による攻撃実施地の義烏、金華の視察、証言聴取　②南京大虐殺惨案跡、紀念館視察及び証言聴取　③河北での三光作戦跡「北坦村」・冉荘地道戦遺跡視察　④交流：中国社会科学院、中華国際青年中心での意見交換などを予定しています。

右上：中国・義烏市で日本軍細菌兵器の被害関係者の皆さんから聞き取り調査（第四次訪問団（/2018/5/11）
右下：中国・義烏市に、新しく開設された侵華日軍細菌戦史実陳列館（2020/12）
第六次訪問団で訪れる予定でした。

TOUR OPERATOR
アイエフシー
は共同出資の手配旅行社です
国境を越えた人と人との出会いを届けます

◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。"人と人との出会い"を通した友好・交流プログラムを演出します。
◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号
〒162-0801
東京都新宿区山吹町333番地　辻ビル405
TEL 03-3268-6014　FAX 03-3268-6079

ベネズエラがアメリカのトランプ政権により圧殺されようとしている 2019 年、IFCCは関係者と連帯の呼びかけをしてきました。その後、ベネズエラで何が起きているのか真実を発信していくため『フェイクに抗うベネズエラ情報』と題するメール発信を開始し、現在、『フェイクに抗う中南米情報』として都合 43 回に上っています。

今号に添付の資料は、「ラテンアメリカをウオッチし続ける」村上久美子さん(クバポン事務局次長)のレポートで直近にメール発信したものです。メール情報をご希望の場合は jvccpf@rmail.plala.or.jp まで

資料 セニョリータのラ米★ウォッチ(2020/12/23)

■ ベネズエラ

・12 月 6 日、予定通りベネズエラ国会議員選挙が行われ、与党が圧勝しました。新たな勢力分布は以下の通りです。

・選挙には各国から 3 千人余りのオブザーバーが参加し、寸分の瑕疵もなく行われました。この中には、ロシアが送った視察団の他、ボリビアに生還してまだ間がないエボ・モラレス前大統領が次代を担う若いアンドロニコ上院議長を伴って参加した他、ラファエル・コレア前エクアドル大統領、サパテロ元スペイン首相、セラヤ元ホンジュラス大統領、フェルナンド・ルゴ元パラグアイ大統領といった人々が顔を揃えました。

共闘名	主な政党	得 票	%
GPPSB ボリーバル愛国結集	PSUV, UPV, PODEMOS など	4,277,926 票	68.43%
Alianza Democr á tica 民主主義協会	COPEI, CAMBIEMOS AVANZADA PROGRESO など	1,095,170 票	17.52%
Alianza Venezuela Unidad ベネズエラ団結協会	VENEZUELA UNIDAD PRIMERO VENEZUELA など	259,450 票	4.15%
ベネズエラ共産党	PCV	168,743 票	2.7%

※与党は PSUV(統一社会党=Partido Socialista Unidad de Venezuela)

オブザーバーとしてベネズエラ国会議員選挙に立ち会った元国家元首

(左から)
セラヤ氏(ホンジュラス)
サパテロ氏(スペイン)
マドゥロ大統領(ベネズエラ)
エボ・モラレス氏(ボリビア)
ラファエル・コレア氏(エクアドル)

・選挙に不正が見当たらない中、EU がやり玉に挙げているのは投票率<31%>です。これが「低すぎる」と言うのですが、同日、EU 加盟国であるルーマニアで行われた上下院選挙の投票率は 31.89%、2019 年に行われた欧州議会選挙でも投票率が 40%に満たなかった国が 9 カ国あり、チェコ(28.72%)、スロベニア(28.89%)、スロバキア(22.74%)、クロアチア(22.85%)は 30%にも達しませんでした。
また、メディアが広めたがっている「野党がボイコットしたから」という『物語』ですが、ボイコットしたのはグアイド一派だけで、大半の野党は選挙に参加しました。

・尚、現職大統領が自国の選挙を「不正選挙」と主張して物議をかもしている米国のベネズエラ批判は、今回はさすがに精彩を欠きました。
ポンペオ国務長官はじめ政府高官がツイッターでちょっかいを出したり、12 月 1 日、駐日米国大使館が日本語スーパー入りでプロパガンダビデオを発表し拡散しようとしましたが、トランプ現大統領、バイデン次期(?)大統領からは、私の見る限り、何の動きも見られませんでした。
意図したものではないにせよ、トランプの「不正選挙騒ぎ」はベネズエラにとってはナイス・アシストだったようです。

・ただし、米国の政権が本腰を入れなくてもメディアのプロパガンダ作戦は健在でした。
セニョリータの家の購読紙は毎日新聞ですが、選挙の前後、数日間は国際欄の半分がベネズエラの政権批判でした。反マドゥロ政権の急先鋒の朝日新聞と日経も同様だったのではないでしょうか。同じ時期、同じ内容で一斉に攻撃する、この指令はどこから来ているのか。謎です。
タイトルを見てみましょう。
「国会議員選挙―マドゥロ政権 独裁強化」
ふつう独裁者は選挙を無効化するものです。国会議員選挙を実施して独裁を強化する独裁者がどこの世界にいるでしょう?
「ベネズエラ議会選『不法』政権強行、米・EU 承認せず」
強行も何も、ベネズエラ憲法に定められた 5 年の任期が 1 月 4 日に切れる国会議員の任期満了に伴う通常選挙です。米・EU の承認が必要でしょうか?
こんなメディアに踊らされて調子に乗るリベラル・左派勢力が出てこないことを祈りたいです。
そして、14 日の朝刊(毎日新聞)。
「住民投票参加者、議会選を上回る」
※「住民投票」とは今回の国会議員選挙をボイコットし「マドゥロ政権の是非を問う」としてグアイド国会議長一派が実施した(自称する)とするもの。
まず、国会が議員選挙を否定する異常さ。これが通るなら議員は終身議員のままでいられることになります。ベネズエラの場合、さらに異常なのは、メディアが「国会」と呼ぶのは、グアイドによるグアイドのため「だけ」の国会だということです。
今年1月5日(2020 年)、ベネズエラの国会で、議長を選出する投票が行われました。
2015 年の選挙で野党が過半数を占めた国会では、野党間の申し合わせで「議席数が多い順に1年交代で議長を出す」ということになっていました。グアイドの所属する党 VP(人民の意志)は4番目で 2019 年は VP の番だったので、グアイドが議長を務めていたわけです。
2020 年は5番目の党 Primer Justicia(まずは公正)の番でしたが、大統領を自称するのに国会議長の肩書を失うわけにはいかないグアイドは野党間の申し合わせを破って引き続き議長の座にとどまろうと画策しました。しかし、過半数の議員はこれを許さず、投票の末、ルイス・パラが議長に選出されました。
そこでグアイドは、今度は国会議長を自称するため、右寄りの新聞社の会議室を国会風に改装して自分だけの国会をでっち上げました。これが、かの「毎日新聞」がベネズエラの国会と称するものの実態です。
また、野党連合(MUD)と称するものも事実上、崩壊しています。マドゥロ政権の対話路線に応えた党、応えなかった党、選挙に参加した党、ボイコットを呼びかけた党と、対応が分かれる中、野党の間で分断が起きるとともに、各党も分裂して新党が結成されるなど、私もついていけないくらい情勢が動いています。
こうした中で、でっち上げの常習者であるグアイドが実施したという住民投票を、グアイドの「国会」、既に過去のものとなった「野党連合」の物語を絡めて大手メディアが取り上げたことに驚きました。
・この茶番劇は一体どこまで続くのでしょうね。
EU は改選前のベネズエラ国会以外は認めないと言っています。というのは、そうしないとグアイド氏は「国会議員」という唯一の肩書を失うからです。
しかし、選挙を闘った野党が、ボイコットしたグアイドを引き続き国会議員で居続けることを許すとは思えません。
野党「CAMBIEMOS―変えよう」の代表チモネオ・サンブラノ氏はさっそく「これで国会もようやくまともになる。『国際社会』も早くまともになってもらいたいね」と語っています。
次にベネズエラのプロパガンダが湧くのは、おそらく 1 月 5 日、新しく選ばれた議員の初登庁の日になると思います。グアイドの路上パフォーマンスが大々的に報道されることでしょう。(リライト:鎌田)